

589



明治三十年四月

融通大念佛縁起上天得如來出現之部

總本山大念佛寺

019210-001-4

特14-589

融通大念佛縁起

総本山大念佛寺

上

M20.4

ABF-2801



20-62

特14
589



明治二十年四月

融通大念佛緣起上天得如來出現之部

總本山大念佛寺

天得如來出現緣起

明治二十年五月十八日內務省交付

1207

恭しく富山本尊天得如來御出現の所因を原ぬるに昔者御
 開山其忍聖應大師幼年にして叡山に登り顯密兩宗を修學
 し各々其奧義を窮め給へり猶弱冠の御身あるも住山三
 學侶天下四來の僧衆一人として大師の右に出る者な
 かりけれと遂に台嶺の講主と推され學侶は師範と仰がれ
 給ひけり然も世間の八風と出世の二利を損ひ文義の攝化
 と無縁の慈悲を壞らんまどを厭せられ無動寺の不動尊
 へ一千日詣で偏に大士の二利を成滿せんまどを祈給ひ期
 て御年廿三あして遂に講主の職を辭し大原の奥に隱遁し
 終ふ爾より日夜勇猛精進して諸禪三昧に身命を委ね智鏡
 を常座の思ふ磨き定水を不眠の心池に澄し給ひ是の如

く二十餘年嘗て厭倦じ給ふ去とあし希ふ所と無上菩提懐
ぶ所と利益有情希願虚しむらす慈懷何を孤ならん時人
皇第七十四代鳥羽天皇の御宇永久五年大師御年四十六歳
五月十五日午の刻に當り三昧に入り給へる中安養教主阿
彌陀如來諸の聖衆と俱に面のあたり身相を現トさせ給ひ
大師も告てのたまはく汝が行不可思議なり一閻浮の中日
域の間に一人なりと是誠無雙あるへしまわれども汝
順次の往生得がたなり其故は我土は一向清淨の境大乘
善根の國あり小善根福徳の因縁をそつてと生じぬたし汝
の行業のごときあてと縦多生曠劫を経とも順次往生の業
因に備がたし速疾往生の勝因を教んどおもふいとゆる融
通念佛是なり融通念佛は一人の行を以て衆人の行とし衆

人の行を以て一人の行とせざるがゆへに功德を廣大なり往
生を順次なるべし一人往生を遂と衆人も往生を遂んまど
疑あるべからせ云云と御告あり此時大師には阿彌陀如來
よの親しく御本佛十一尊の曼荼羅を授かり給ふ此尊像ハ
大師定中に感見し給ふ所の身相に毫差とせ一佛中央に立
給ひ十體の聖衆左右に圍繞し給ふと十界一念総相別相十
身具足一大法身の御票相にして我等凡夫往生淨土の證信
に御座在す所の尊像あり大師既も斯の如く佛の示誨を蒙
り其上斯る尊とさ御本尊さぬ感得し給ひ年來の御志に剛へ
二利圓滿の要法茲に開發しけれと大師御喜悅限りなく行
化の御志益々堅固に御座在けり爾より専ら融通念佛の
妙宗を弘演し玉ひ上は鳥羽天皇三公九卿諸司百官より下

と庶民に至り并に三界諸天六道冥官日本國中八百萬神を
 始め飛禽走獸魚介昆蟲に及ぶまで悉く大師に歸向し妙宗
 に信順して現よと滅惡生善の福祉を受け當にと往生淨土
 の洪益を蒙り乃至未來際を盡すまで恒よ衆生を攝化し
 て現當の兩益を得せしむること偏に融通念佛の開顯天得
 如來の出現る因をの妙宗有縁の道俗豈喜怡の至にわらず
 や

